

I 学校の概要

ICT活用推進実践校事業 観音寺市立高室小学校

◆ 児童生徒数及び教員数（令和6年4月1日時点）

児童	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	全校	教員	12名
	1学級 23名	1学級 20名	1学級 20名	1学級 14名	1学級 24名	1学級 22名	6学級 123名		

◆ 学校の特徴

本校は、昨年度「教科等の指導におけるICT利活用モデル校事業」の研究指定を受け、ICTを活用した授業改善に取り組んできた。昨年度までの実践により、ICTを利活用するための環境を整え、日常的にタブレット端末を活用した教科指導に取り組んでいる。児童は、発達段階に応じたタブレット端末の操作スキルを身に付け、高学年であれば、タブレット端末を使って資料を作成し、必要な資料を印刷したりプレゼンしたりできるようになるなど、ICTを文房具として使えるようになってきた。また、日常的なタブレット端末の持ち帰りも実施し、デジタル連絡帳やタブレット端末による宿題等での利活用、デジタルノートの作成や、ICTを活用した授業の振り返りなどを通して、学校の学びと家庭をつなぐ取り組みを行っている。

II 研究の概要

感じ・認め・つなぎ、学び合う子どもの育成

— ICTを効果的に活用した主体的に生きる人づくり —

◆ テーマ設定の理由

本校の主な教育課題は学力の向上と、生徒指導・特別支援教育の充実である。小規模校で1学年20名程度の児童数ではあるが、学力の二極化と特別な支援を必要とする児童の増加が顕著に見られ、一人一人の学びを保障する観点からも、指導方法の工夫・改善が求められている。この課題を解決するには、主体的に学びに挑戦する子どもを育てることが求められる。そのためには、ICTを適切かつ効果的に活用して、個別最適な学びと協働的な学習を充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びを通して、複雑で予測困難な社会を生き抜くために必要な資質・能力を育成することが肝要であると考えている。

◆ 研究内容及び方法

- ① 1人1台端末の持ち帰りによる家庭学習や、授業と関連した取り組みの工夫
- ② ICTを活用した個別最適な学びの工夫
- ③ 情報活用能力を育む指導の工夫

III 研究の評価方法

○ 各種アンケートの結果分析

〈児童アンケート〉

- ・「授業は楽しいですか。」
- ・「自分の考えをまとめ、発表する場面で、ICT機器を、どの程度使っていますか。」
- ・「学級の友達と意見を交換する場面で、ICT機器を、どの程度使っていますか。」
- ・「授業では、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいましたか。」

〈教員アンケート〉

- ・「教科のねらいに沿ってICT機器を効果的に活用した授業ができましたか。」
- ・「児童の情報活用能力の育成に計画的な指導ができましたか。」